

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第 1 期募集 入学試験問題

地域創造学専攻 試験科目：農村計画論（一般選抜）

【基礎】

問題 1

農村計画論で使用する基礎的な用語などについて聞きます。次の（1）～（6）のなかから、任意に4つを選び、選択した番号を先頭に明記した上で簡潔に説明してください。

- （1）「DID」と記されることもある「人口集中地区」
- （2）農業農村の多面的機能
- （3）環境対策における「ミティゲーション」（広義および狭義）
- （4）ゾーニング以外の「土地利用計画の実現手段」
- （5）換地処分における「異種目換地」
- （6）市街化調整区域

【専門】

問題 2

次の3つの設問に答えてください。

（1）農村計画における生活環境の計画は、「体制づくり」「調査・診断・啓発・学習」「構想計画」「基本計画」「実施計画」に分けることができます。そのうちの「診断」における評価項目（「性」という文字が最後につくことが多い）について、簡潔に整理してください。

（2）（1）への回答をもとに、評価項目の両立が難しいと思われる場合（場面）の例を一つ考え（架空でもかまいません）、簡潔に解説してください。

（3）「この先の国全体の人口減少が、過疎地の維持に与える影響」として考えられることを述べてください。さらに、それをもとに、過疎地の農村整備の将来について自由に論じてください。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般

科目名 農村計画論

解答例又は出題意図

問題 1 の出題意図

基礎的な用語などの理解をみるために出題した。農村計画の「教科書」となっている『改訂農村計画学』（改訂農村計画学編集委員会，農業農村工学会発行，2003）から、基本的なところを出題した。それぞれの用語に関連する箇所（項）は次のとおり。

- (1) 「農村の範囲」, p. 15
- (2) 「中山間地域の農業・農村における多面的機能」, pp. 222-224
- (3) 「環境アセスメントとモニタリング」, pp. 208-211
- (4) 「土地利用計画の特徴と内容」, pp. 59-66
- (5) 「換地手法」, pp. 78-86
- (6) 「わが国の国土利用計画の体系」, pp. 66-73

問題 2 の出題意図

(1) の出題意図

生活環境整備は、農村計画のなかでも重要なテーマの一つであり、ここでは、土木的・工学的側面だけでなく、住民の視点からの環境評価も非常に重要となる。そのような環境評価についておさえているか、をみるために出題した。

(2) の出題意図

「環境評価」では、多面的な評価が重要であるが、評価項目には、両立が難しい組み合わせもあり、農村計画の実践では、そのような場合への対応が求められることがある。この問いは、その種の対応能力に関する素地があるか、をみるために出題したものである。

(3) の出題意図

未来のことであり、確かなものとして広く共有された要素も少ない。ここでの主眼は論文執筆の基礎力をみることであり、特定の「正解」があるわけではない。論の流れに問題がなければそれでよしとする。

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(1枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	<input type="checkbox"/> 一般 ・ 外国人 ・ 社会人
試験科目	地域社会学		

【基礎】

問題1 以下の6つの用語のうちから4つを選択し、その意味を説明してください。

解答の順番は問いませんが、選択した番号を文頭に明記してください。

- (1) ソーシャル・キャピタル (social capital)
- (2) ジェントリフィケーション (gentrification)
- (3) コンパクトシティ (compact city)
- (4) 社会的ネットワーク分析 (social network analysis)
- (5) ガバナンス (governance)
- (6) 内発的発展 (endogenous development)

【専門】

問題2 都市の地域集団である「町内会・自治会」および「ボランティア団体・NPO」について、それぞれの特徴と課題について説明したうえで、両者が協働する可能性について具体例をあげつつ論じてください。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 一般

科目名 地域社会学

解答例又は出題意図

【基礎】

問題 1 以下の 6 つの用語のうちから 4 つを選択し、その意味を説明してください。

出題意図：

大学院で地域社会学を学ぶにあたって必要となる基礎知識への修得状況を確認するために出題したものである。

【専門】

問題 2 都市の地域集団である「町内会・自治会」および「ボランティア団体・NPO」について、それぞれの特徴と課題について説明したうえで、両者が協働する可能性について具体例をあげつつ論じてください。

出題意図：

- ① 都市における「町内会・自治会」の特徴を説明できるか。
- ② 都市における「町内会・自治会」の課題を説明できるか。
- ③ 都市における「ボランティア団体・NPO」の特徴を説明できるか。
- ④ 都市における「ボランティア団体・NPO」の課題を説明できるか。
- ⑤ 両者の特徴と課題から、協働することの困難さやメリットやデメリット、また協働推進のための方策等について述べられているか。
- ⑥ 両者の協働の可能性について具体的に適切な事例をあげているか。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第 1 期募集 入学試験問題

地域創造学専攻 試験科目：自然地理学（一般選抜）

以下の問題1～問題3のすべての問題に日本語で解答しなさい。

【基礎】

問題1 以下の①～⑤の5項目から3項目を選択し、それぞれ200字程度で簡潔に説明しなさい。

- ① ジオパークの3つの目的
- ② ジオツーリズムとエコツーリズム
- ③ ジオパークの再認定審査におけるイエローカードとレッドカード
- ④ 島原宣言（2012年第5回ジオパーク国際ユネスコ会議採択）
- ⑤ 白山手取川ジオパークの基本的なジオストーリー

【応用】

問題2 日本のジオパークの運営体制は「ミドルアップ・ミドルダウン」とも指摘される。この「ミドルアップ・ミドルダウン」型運営について、その特徴を説明するとともに、その長所・短所についてあなたの考えを述べなさい。その際に、「ミドルアップ・ミドルダウン」型運営と対比される「トップダウン」型運営と「ボトムアップ型」運営を行っている国や地域を取り上げつつ、比較しながら論考を試みなさい。なお、解答に字数制限は設けない。

問題3 UNESCOの下で運営されるWorld Heritage, MAB/Biosphere Reserve, Global Geoparkの3つの制度について、それぞれの制度の特徴と関係性について整理した上で、類似点と相違点について述べなさい。なお、解答に字数制限は設けない。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 一般

科目名 自然地理学

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題1 以下の①～⑤の5項目から3項目を選択し、それぞれ 200 字程度で簡潔に説明しなさい。

① ジオパークの3つの目的

「geo heritage(大地の遺産)の保護」「大地とその保護に関わる教育」「大地の遺産を活用した持続可能な地域づくり」の3項目のすべてについて適正に言及してあること

② ジオツーリズムとエコツーリズム

「大地の遺産」を利用するジオツーリズムと、生態的遺産を利用するエコツーリズムの差異に言及できていることが最低の要件。その上で、いずれもマスツーリズムに対置される少人数を対象としたツーリズムであること、自然環境とその保護に関する学習と親和性が高いツーリズムであること、着地側の意図でツアー内容が構築される着地型観光と親和性が高いことなどが述べられていることで加点する。

③ ジオパークの再認定審査におけるイエローカードとレッドカード

世界、日本とも、ジオパークが4年ごとに再審査される制度があり、その際に、活動に不十分な点があった場合に「条件付き再認定」として2年間のみの更新が認められるケースがある。これが一般的に「イエローカード」と呼ばれる。イエローカード2年後の再認定審査において、状況が改善していなかった場合「認定取り消し」の処分となる。これを一般的に「レッドカード」と呼んでいる。

④ 島原宣言(2012年第5回ジオパーク国際ユネスコ会議採択)

ジオパークの制度が安定陸塊が広いヨーロッパで発祥したことに伴い、発足当初は「保護」に重点を置いた制度設計になっていた。変動帯にある日本から複数の世界ジオパークが認定され、その一つの島原半島ジオパークにおいて世界会議が開かれた際に、自然災害と防災を含む、変動する自然環境との共生の在り方をジオパークの重要なテーマとして位置づける島原宣言が採択された。この後のジオパークにおいて、防災が重要なテーマとして位置づけられる契機となった。

⑤ 白山手取川ジオパークの基本的なジオストーリー

豪雪地である白山と、急峻な河川である手取川をエリアとする白山手取川 Gp は、「山-川-海 そして雪命をはぐくむ水の旅」「水の旅・石の旅」をテーマとしている。水の旅は水循環、石の旅は水循環に伴う侵食-運搬-堆積の地形形成プロセスを示している。外営力・外作用による地形形成と、それに伴う土地利用、水資源利用や、水害との共生系からなる地域の自然環境と人文社会的環境の包括的理解を基本的なジオストーリーとしている。

【応用】

問題 2 日本のジオパークの運営体制は「ミドルアップ・ミドルダウン」とも指摘される。この「ミドルアップ・ミドルダウン」型運営について、その特徴を説明するとともに、その長所・短所についてあなたの考えを述べなさい。その際に、「ミドルアップ・ミドルダウン」型運営と対比される「トップダウン」型運営と「ボトムアップ」型運営を行っている国や地域を取り上げつつ、比較しながら論考を試みなさい。なお、解答に字数制限は設けない。

「ミドルアップ・ミドルダウン」型運営は、地方自治体（「ミドル」）が運営の主体となり、上位の地方自治体（市町→県）や、国への働きかけを行う「アップ」と、住民に対して働きかけを行う「ダウン」という構造を有している運営形態。欧州の各 Gp では、地域の NPO/NGO や学術組織が主体となって Gp を立ち上げ・運営している「ボトムアップ」型、国家権力が強くジオパークの立ち上げ・運営に関与する中華人民共和国の「トップダウン」型と対置される。ジオパークには、明確な「エリア」設定と、保護保全のための制度的担保が必要であり、さらに活動を継続するための財政的保障が必要とされる。日本では地方分権がある程度進み、地方の財政的な独理性があることから、必ずしもトップダウンで行う必要はない。加えて、変動帯にあり、地形地質学的にモザイク状の構造を有する日本においては、トップダウンで行うよりもボトムアップ型に近づけることで、地域ごとの特性を評価・表出させやすい利点がある。一方で、市民の社会参画が進まない日本においては、人的・財政的な観点から完全なボトムアップ型の立ち上げ・運営も難しい。その意味で、「ミドルアップ・ミドルダウン」型運営は、日本のジオパークの特に立ち上げから初期運営の段階においては望ましい体制であると評価できる。

問題 3 UNESCO の下で運営される World Heritage, MAB/Biosphere Reserve, Global Geopark の 3 つの制度について、それぞれの制度の特徴と関係性について整理した上で、類似点と相違点について述べなさい。なお、解答に字数制限は設けない。

WH: OUV を持つ遺産を保護することが目的。MAB/BR: 生態的遺産を保全するとともに、それを活用して持続可能な地域社会の形成に資する。Gp: 地質遺産を保全するとともに、それを活用して持続可能な地域社会の形成に資する。UNESCO においてはこの 3 つの制度は連動して運用されており、人類共通の遺産の保護・保全と持続的な社会の形成を目的とする点では共通している。遺産の価値と特性によってことなる制度が適応される。ただし、WH では遺産の保護が重要視されるのに対し、MAB/BR と Gp では活用（教育やツーリズム）が重要視される点が位置づけとして異なる。加えて、遺産の保護を目的とする WH では登録時のみ審査が行われるが、MAB/BR と Gp では活用が要件となっているため 4 年ごとの再審査が行われる点が制度的に異なる。

2023・1期 入学試験問題(社会福祉学・外国人留学生特別選抜)

基礎

問題1 次の語句の内容及び関連する事柄について説明しなさい。

(1)「成年後見制度」について説明しなさい。

(2)「ダイレクトペイメント」について説明しなさい。

(3)「健康格差」について説明しなさい。

(4)「貧困と社会的排除」について説明しなさい。

専門

問題2 福祉ミックス(welfare mix)に関する内容について次の4つのキーワードをすべて使い説明しなさい。

キーワード: サービス供給モデル, 規範概念, 福祉多元主義, インフォーマル

基礎

問題 1 社会福祉及び社会保障に関する基本的な知識と理解についてみる。

採点基準

(1) 成年後見制度

- ・契約等の法律行為に関わる判断能力が不十分な人々(例. 認知症、知的障害)に対して、財産管理や身上監護を成年後見人等がおこなう仕組みであることを理解していること。
- ・任意後見・法定後見の2つの制度から成り立っていることを理解していること。

(2) ダイレクトペイメントについて説明しなさい。

- ・当事者が支援者を直接雇用(パーソナルアシスタント)し、当事者が支援の過程を管理できるようにその費用を直接支給する仕組みであることを理解していること。
- ・福祉サービスの運営体制を当事者自身が管理する仕組みの一つであることを理解していること。

(3) 健康格差について説明しなさい。

- ・社会階層や人種・民族等を理由とした医療アクセスや健康面についての質の格差があることを理解していること。
- ・所得による健康格差が認められる場合、所得格差による受診機会の不平等をなくす必要があることを理解していること。

(4) 貧困と社会的排除について説明しなさい。

- ・一般的に付与される雇用・教育・住居・行政サービス・社会参加等の機会から排除されることを理解していること。
- ・貧困の概念を貨幣的なものに限定せず、社会的機会等までに拡張した概念であることを理解していること。

専門

問題 2 福祉政策についての基本的な知識と理解についてみるとともに、受験者の文章構成能力についてもみる。

採点基準 以下 4 点についての理解が出来ていること。

・福祉ミックスが多様な主体による福祉サービスの供給状況を指す概念として使われていることを理解していること。

・福祉ミックスが規範概念として使用される場合は、多様な主体によるサービス供給が望ましいとした価値判断を含む概念として使われていることを理解していること。

・多様な主体によるサービス供給モデルには、

国家・地方政府による直接サービスを提供する政府部門(第 1 セクター)

営利事業者によりサービスが提供される民間営利部門(第 2 セクター)

非営利事業者によりサービスが提供される非営利部門(第 3 セクター)

とするフォーマルなサービス提供と、

血縁者・友人等によるインフォーマルな部門から成り立っていることを理解していること。

・福祉ミックスは、多様な供給主体により役割分担がなされることで、効率的に福祉ニーズの充足がおこなわれると考える場合は、福祉多元主義と同じ意味で用いられることを理解していること。

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	公共社会学		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 以下にあげる用語のうち、4つを選んで説明してください。解答の順番は問いませんが、解答用紙には、選択した番号を文頭に明記してください。

- (1) アクティベーション
- (2) 再生産レジーム
- (3) 価値判断の自由
- (4) 社会運動
- (5) 所得保障
- (6) 互酬性
- (7) 社会的入院
- (8) リスク社会

【専門】

問題2 アマルティア・センのケイパビリティ論について説明し、それが登場した問題の背景、その研究上の意義と限界について論述してください。さらに、福祉国家について考えるうえで、ケイパビリティ論が持つ意味について考察してください。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 外国人留学生特別選抜

科目名 公共社会学

解答例又は出題意図

【基礎】

大学院で公共社会学を学ぶにあたって必要となる基礎知識の習得状況を確認するために出題したものである。解答することを選択した概念について、課題テキストである、坏洋一『福祉国家』（法律文化社、2012年）と武川正吾『政策志向の社会学』（有斐閣、2012年）における該当する部分での説明をもとにして、適切に理解できているかを問うている。

【専門】

大学院で公共社会学を学ぶにあたって必要となる知識を構造化し、それを論理的に説明する能力を確認するために出題したものである。

アマルティア・センのケイパビリティ論が正確に理解されているか、その議論が登場した背景と、そのアプローチがもたらした研究上の意義や画期的である点を説明できるか、そして、センのケイパビリティ論の問題点を検討できているか、さらに福祉国家を考えるうえでケイパビリティ論の持つ意味を適切に考察できているかを問うている。

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	地域経営論		

【基礎】

問題 1 以下のすべての用語の定義や意味について説明しなさい。

- (1) サステナブル・ツーリズム
- (2) オルタナティブ・ツーリズム
- (3) 内発的発展
- (4) エコロジカル・デモクラシー
- (5) 関係人口

【専門問題】

問題 2 まちづくり手法としてのツーリズム(観光)について、以下のキーワードをすべて用いて、これまでの学術的な論点を整理しつつ、観光まちづくりの開発手法の特性についてあなたの考えを論じなさい。

キーワード: 発地型観光、着地型観光、内発的発展、地域資源、地域への愛着

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 外国人

科目名 地域経営論

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1 以下のすべての用語の定義や意味について説明しなさい。

- (1) サステナブル・ツーリズム（参考：山下晋司編『観光学キーワード』、有斐閣、pp. 52-53）
- (2) オルタナティブ・ツーリズム（参考：山下晋司編『観光学キーワード』、有斐閣、pp. 116-117）
- (3) 内発的発展（参考：山下晋司編『観光学キーワード』、有斐閣、pp. 162-163）
- (4) エコロジカル・デモクラシー（参考：Randolph T. Hester, Design for Ecological Democracy）
- (5) 関係人口（参考：田中輝美（2021）『関係人口の社会学』）

<出題意図>

出題意図については、地域経営及び、観光まちづくりの分野における基礎的な専門用語を確認するものである。

問題 2 まちづくり手法としてのツーリズム（観光）について、以下のキーワードをすべて用いて、これまでの論点を整理しつつ、観光まちづくりの開発手法の特性についてあなたの考えを論じなさい。

（参考：山下晋司編『観光学キーワード』、有斐閣、pp. 148-149）

キーワード：発地型観光、着地型観光、内発的発展、地域資源、地域への愛着

<出題意図>

出題意図については、まちづくり手法としてのツーリズム（観光）の観点から、観光まちづくりを学術的に説明できるもしくは自身の考えを述べられるのか問うものである。

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第1期募集 入学試験問題

地域創造学専攻 試験科目：教育行政学（一般選抜）

【基礎】

問1：以下の言葉のうちから2つを選択して、意味を説明してください。

- (1) 教育を受ける権利
- (2) 学校の「公の性質」
- (3) 義務教育費国庫負担制度
- (4) 学校運営協議会制度
- (5) 教育振興基本計画

【専門】

問2：児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）を日本国が批准して30年近く経過している。しかし、いまだに子どもの権利保障には多くの課題が存在する。子どもの権利保障において行政が果たしうる役割としてどのようなものが考えられるか。行政による具体的な取り組みとその課題を交えて論じなさい。なお、取り上げる具体例は、国と地方公共団体のどちらかに限定してもよいし、両者でもよいこととする。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般

科目名 教育行政学

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題 1 以下の言葉のうちから 2 つを選択して、意味を説明してください。

- (1) 教育を受ける権利
- (2) 学校の「公の性質」
- (3) 義務教育費国庫負担制度
- (4) 学校運営協議会制度
- (5) 教育振興基本計画

出題意図：教育行政学の基本的な用語の理解度を測るために出題した。(1) は日本国憲法第 26 条で保障された権利であること、(2) は学校教育が誰もが受益可能でなければならないとの原則を示すものであること、(3) は義務教育諸学校を財政的に支える制度であること、(4) は地域住民による学校運営参加を法的に保障するものであること、(5) は教育基本法に規定された国家による教育に係る 5 ヶ年計画であり地方公共団体に参酌するように求めるものであること、を中心に理解度を問うものである。

【専門】

問題 2 児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）を日本国が批准して 30 年近く経過している。しかし、いまだに子どもの権利保障には多くの課題が存在する。子どもの権利保障において行政が果たしうる役割としてどのようなものが考えられるか。行政による具体的な取り組みとその課題を交えて論じなさい。なお、取り上げる具体例は、国と地方公共団体のどちらかに限定してもよいし、両者でもよいこととする。

出題意図：子どもの権利保障の実情についての認識、行政機関の実際の取り組みとその課題についての認識、これらを踏まえて行政機関が果たすべきことについての提案とその論証度（説得力、構成員等）を測るために出題した。

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	身体運動心理学		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

運動技能の学習における三段階説(Fitts&Posner, 1967)について詳しく説明してください。

【専門】

スポーツ傷害(外傷・障害)や感染症の拡大等によって練習時間が確保できない状況にあるとき、視覚的な情報を活用して運動技能を学習したり、指導したりする際にはどのような工夫が必要になるか?考えられる具体的な方法とその理由について論じてください。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 一般

科目名 身体運動心理学

解答例又は出題意図

問題 1（基礎問題）

「運動技能の学習における三段階説（Fitts & Posner, 1967）について詳しく説明してください。」

【出題意図】

- ・ 課題テキストの内容を理解し、身体運動心理学の基礎的な知識を身につけているか確認する。
- ・ テキストの該当箇所解説されている代表的な理論や用語を適切に引用し、正確に説明できているか確認する。

問題 2（専門問題）

「スポーツ傷害（外傷・障害）や感染症の拡大等によって練習時間が確保できない状況にあるとき、視覚的な情報を活用して運動技能を学習したり、指導したりする際にはどのような工夫が必要になるか？考えられる具体的な方法とその理由について論じてください。」

【出題意図】

- ・ 課題テキストの内容を理解したうえで、大学院進学後に身体運動心理学に関する専門的課題に取り組むうえで求められる知識や論理的思考力を有しているか確認する。
- ・ 運動スキルの学習が困難になる状況を想定した時（傷害、感染症等）、具体的な状況やそうした状況で生じる課題、ならびに課題解決の方法を広く展望したうえで、視覚的な情報の効果的な利用方法について論述する能力を確認する。

2023年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(1枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	言語障害支援論		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 以下の(1)～(4)から 2つの障害を選択し、その障害の特徴(症状、困難、指導・支援方法など)を100～150字程度で説明して下さい。

- (1)吃音
- (2)聴覚障害(難聴、ろう)
- (3)自閉スペクトラム症(自閉症スペクトラム障害)
- (4)知的障害

問題2 以下の(a)～(h)から 4つの用語を選択し、それぞれ50～100字程度で説明して下さい。

- (a)日本手話
- (b)国際生活機能分類(ICF)
- (c)人工内耳
- (d)言語障害通級指導教室(ことばの教室)
- (e)合理的配慮
- (f)二次障害
- (g)流暢性形成法
- (h)行動療法

【専門】

問題3 言語・コミュニケーションに困難がある子どもの(1)実態把握(アセスメント、評価)、(2)環境調整(子どもを取り囲む人的、物的環境への働きかけ)、(3)本人への教育・指導(子どもに対する個別指導や集団指導などの直接的な働きかけ)では、どのようなことに留意する必要がありますか。あなたの考えを述べて下さい。

2023 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般・外国人

科目名 言語障害支援論

解答例又は出題意図

【基礎】

問題1 選択した障害について、その障害の特徴(症状、困難、指導・支援方法など)についての理解を問う。具体的には、以下に挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

※これら以外の記載についても、加点することがある。

(1)吃音

症状(語音の繰り返し、語音の引き伸ばし、語音のつまり(阻止)が中核的な言語症状である。吃音の話し方への意識、予期不安などの心理症状がある。)、困難(決まった言葉をタイミング良く言うことが難しい。他児からのからかいを受ける者が多い。)、指導・支援方法(環境調整、スピーチセラピー、心理面へのアプローチなどを組み合わせた多面的・包括的アプローチが支持。)など。

(2)聴覚障害(難聴、ろう)

症状(聴力に損失がある。伝音性難聴と感音性難聴に分けられる。聴力損失のレベルやタイプにより様々な状態がある。)、困難(音の情報を把握できない。音声言語が聞こえないので言語発達が遅れたり発話がうまくできなったりする。)、指導・支援方法(補聴(補聴器、人口内耳)。手話の習得。言語や構音の指導、環境調整。)など。

(3)自閉スペクトラム症(自閉症スペクトラム障害)

症状(社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応の問題。行動・興味・活動の限定された反復的な様式。)、困難(対人関係をうまく築けない。言語やコミュニケーションの問題が見られる。強いこだわりがある。感覚過敏がある。)、指導・支援方法(周囲の理解や環境調整。行動療法。障害理解教育(自身の特性を理解し、得意な部分を伸ばし、苦手なところを別の方法で補う。))など。

(4)知的障害

症状(全般的な認知機能の顕著な低下がある。日常生活を過ごす上での適応行動に問題がある。)、困難(言葉の遅れ。学業成績の問題。日常生活に必要な動作ができない。対人コミュニケーションがうまくできない。)、指導・支援方法(周囲の理解や環境調整。対人コミュニケーションの指導。日常生活動作の指導。言語理解と表出の指導。社会生活スキルの指導)など。

問題2 選択した用語についての理解を問う。具体的には、以下に挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

※これら以外の記載についても、加点することがある。

(a) 日本手話

日本語対应手話と異なり、日本語とは全く異なる言語体系(語彙や文法構造)を持つ。ろう者コミュニティを中心に生活する聴覚障害者にとって日本手話は第一言語となる。

(b) 国際生活機能分類(ICF)

WHO が定めた人間の生活機能と障害に関する分類。「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」からなる「生活機能」と、「環境因子」、「個人因子」の「背景因子」、「健康状態」から構成される。

(c) 人工内耳

マイクで集音した音を電気信号に変換し、蝸牛に埋め込んだ電極を介して聴神経に入れる装置。補聴器で十分な補聴が得られない高度感音性難聴のある人が適用となる。

(d) 言語障害通級指導教室(ことばの教室)

通常学級に在籍する児童生徒に、週に 1 回程度、言語障害による学習上生活上の困難の改善のための特別な教育を行う教室。主に自立活動に基づく指導が行われる。

(e) 合理的配慮

障害のある人が、社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合に、過重な負担とならない範囲で行う配慮(変更や調整)。障害者差別解消法では、国や自治体に法的義務を課している。

(f) 二次障害

一次的な障害に対する困難(周囲の人の叱責やからかい、学業不振など)によるストレスにより、頭痛や食欲不振など身体面の問題や、不安やうつ、緊張など精神面の問題が生じること。

(g) 流暢性形成法

吃音の言語症状の指導法で、ゆっくり話す、口や喉をそっと柔らかく動かして話すなどの吃音になりにくい話し方を用いて日常生活で話せるようになることを目指し、単語、句、文、文章、会話と徐々に発話の長さや複雑さを増しながら指導する。

(h) 行動療法

古典的条件付け、オペラント条件づけなどの心理学的学習の考え方にに基づき、行動上の問題が生じる要因を分析した上で、賞賛などを用いた望ましい行動を増大や、無反応などを用いた望ましくない行動の減少などを行う。

【専門】

問題3 言語・コミュニケーションに困難がある子どもへの指導・支援についての理解や考えを問う。具体的には、以下に挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

※これら以外の記載についても、加点することがある。

(観点 1) 実態把握(アセスメント、評価)について、以下のようなことに言及している。

- 各障害の症状に関してだけでなく、障害による学習上生活上の困難や、二次障害などの実態把握も行う必要があること。
- 子どもを取り巻く環境(人的、物的環境)の実態把握を行う必要があること。
- 主観的な評価だけでなく、標準的な発達との差異や、標準化された検査の利用など、客観的な指標に基づく評価も行う必要があること。

(観点 2) 環境調整(子どもを取り囲む人的、物的環境への働きかけ)について、以下のようなことに言及している。

- 子どもの発達状況や障害の状況、気質、性格などに合わせた環境調整を行う必要があること。

- 基礎的環境整備や合理的配慮の考え方に基づく環境調整を行う必要があること。

(観点 2) 本人への教育・指導(子どもに対する個別指導や集団指導などでの直接的な働きかけ)について、以下のようなことに言及している。

- 各障害の症状の改善だけでなく、障害による学習上生活上の困難や二次障害などの改善も行う必要があること。
- 「できた」、「わかった」など成功経験を積ませる必要があること。
- 得意なところをさらに伸ばすという発想に立つ必要があること。
- 個々の状況に応じて、自身の障害の理解を図る障害理解教育を行う必要があること。